

第3学年国語科学習指導案

授業者 三宅 博美

1. 日時 平成28年11月16日(水)
2. 学級 一関市立大東中学校 3年B組 男子11名 女子10名 21名(3年B組教室)
3. 単元名 5いにしへの心と語らう 古典を心の中に(光村図書)

4. 単元について

本単元は、中学古典教材の総仕上げとして位置付けられており、単元の目標は「作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす」である。学習指導要領「ア伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア)歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと(イ)古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと」をねらいとしている。本時の教材「古典を心の中に」は単元の最後に掲げられた解説文である。生徒たちはこれまでの古典学習を通して、様々な作品に接し、古人の考え方や心に触れてきた。それらを想起させ、改めて古典に描かれている生き方や考え方、人々とのかかわりを考えることで、古典を学ぶ意味や意義を再認識させたい。[読むエ]そして、古典学習を継続する意欲の喚起にもつなげたいと考える。[関心・意欲・態度]

4月時の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全国比A問題99、B問題104であり、国語の学力は低くない。特にB問題の数値が高く、知識を活用する力がついていることは、国語の積み上げが確かなものになっている現れである。生徒質問紙によると、「国語の勉強は好きか」「国語の授業の内容はよくわかるか」「読書は好きか」「資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしているか」という項目で全国や県に比べて数値が低くなっている。理解力や応用力はあるものの、国語に対する関心を持っていないこと、自信をもって表現できないことなどが、4月当初の学習アンケートからもうかがえた。今年度からの教科担任ということもあり、1学期は、授業と併行して大きな字で丁寧に書く、小テストに意欲を持って取り組む、ワークなどの家庭学習にきちんと取り組むなど、基本的な学習習慣の定着にも力を入れた。

生徒たちは、素直で、意欲的に授業に臨んでいるが、自分の想いを表現することに消極的な面が見られる。時間内に自分の考えをまとめ、長く書ける力をつけさせることが授業改善課題である。本時の授業でも、まとめの段階で文章化させ、古典学習の意義を深める手立てとしたいと考える。

5. 単元の指導と評価の計画

①単元の目標

- ・歴史的な背景などに注意しながら、伝統的な言語文化としての和歌・俳諧の世界を味わう。

【読むこと(1)ア・エ】 【伝国ア(ア)】

- ・古典の一節を引用した文章を書き、古典を学ぶ意義などについて考える。

【伝国ア(イ)】

- ・古典について学び続けようという心を育てる。

【関心・意欲・態度】

②単元の短期シラバス

| 単元時数 | 単元時・学習範囲等 | 教科書・ワークページ | 学習授業内容(学習課題) | 評価・確認事項(まとめ) | 授業の評価確認問題等 | |
|------|---------------------|------------|-------------------------------------|--|------------------------|-----------|
| 1 | 5いにしへの心と語らう1 | 古今和歌集「仮名序」 | p134~137 | 表現の特徴を生かしながら音読しよう。 | 古文のリズムや響きを楽しみながら音読できる。 | 形態を工夫した音読 |
| 2 | 君待つと「万葉集」 | P139~141 | 「万葉集」の心情や情景を味わおう。 | 「万葉集」の特徴を確認しながら、読み味わうことができる。 | | |
| 3 | 君待つと「古今和歌集」「新古今和歌集」 | P142~144 | 「古今和歌集」「新古今和歌集」の心情や情景を読み味わおう。 | 「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴を確認しながら、読み味わうことができる。 | | |
| 4 | 君待つと | P139~144 | 印象に残った一首を選び鑑賞文を書き、交流しよう。 | 鑑賞文の交流を通して、和歌の世界を味わう。 | 鑑賞文と発表会 | |
| 5 | 夏草「おくのほそ道」から1 | P146~147 | 1を表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わおう。 | 原文の特徴や内容をとらえ、作者の心情にせまることができる。 | | |
| 6 | 夏草「おくのほそ道」から2 | P146~147 | 2を表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わおう。 | 原文の特徴や内容をとらえ、作者の心情にせまることができる。 | | |
| 7 | メッセージを贈ろう | P154 | 既習の古典の言葉を引用して、メッセージを書こう。 | 古典を引用して、自分の想いをつたえることができる。 | 文集にまとめる | |
| 8 | 古典を心の中に(本時) | P155~156 | 古典を読むことの意義を理解し、自分にことごとく古典とは何かを考えよう。 | 自分にことごとく古典とは何かを考えることができる。 | グループ学習、学び合い | |

6. 本時について

(1) 本時のねらい

本時は、古典学習の総仕上げとして、「古今和歌集 仮名序」「万葉・古今・新古今和歌集」「おくのほそ道」の3教材を学んだあとに古典の意義を説くために配された解説文を取り上げる。内容の読み取りは予習課題として取り組ませ、確認程度で済ませたい。さらに、事前に書かせた「今まで学んだ古典の中で一番好きな作品とその理由」を手がかりに、古典の魅力を考えさせ、なぜ今もなお古典は愛されるのかを探る中から、古典の意義に迫っていきたい。この学習が、高校生になっても、さらにその先も古典に関心を持ち続ける意欲の育成につながるような授業に深めていきたいと考える。

(2) 授業づくりの視点 (研究テーマに関わって)

① 「いわての授業づくり3つの視点」から

【学習の見通し】

学習予定表に明示された学習課題を全体で共有し、本時のゴールを見通させる。

【学習課題を解決するための学習活動】

「古典の魅力」を個→グループ→全体と段階的に進め、その交流を通して学びを深めさせたい。

【学習の振り返り】

グループ発表から出てきた言葉で「古典の意義」をまとめ、それらをもとに、今後の学習への意欲付けを図る。

② 生徒指導の観点から

教科担任から課する量が少ないことが大きな要因ではあるが、生徒たちの、家庭学習に費やす時間は圧倒的に国語が少ない。「勉強の仕方がわからない」という声も、この時期に及んでも多く聞かれる。本教材では、内容の読み取り用の予習プリントを用意することで、生徒たちの予習への取り組みを補佐したい。また、漢字練習用プリントやワーク学習(答えを写すなど)を丁寧に行おうとしない生徒も見られることから、自作の予習プリントを用意することとした。

(3) 本時の目標

- ① 本文の内容を捉え、これまでの古典学習を振り返る。 【読むこと(1)ア】
- ② 古典を読むことの意義について自分の考えを持つ。 【読むこと(1)エ】
- ③ 古典について学び続けようとする心を育てる。 【関心・意欲・態度】

(4) 本時の展開

| 段階 | 学習活動 | 指導の留意点 | 評価□ 授業づくりの視点 |
|----------|---|---|--|
| 導入 10 | 1. 予習の確認をする。 2. 学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">古典の意義はなんだろう。</div> | ・予習プリント 挙手による発言で意欲付けを図る ・学習予定表からの発表 国語教科リーダー | トライワンミニッツ <指導目標①評価> 【②学習課題の把握】 |
| 展 | 3. 今まで学習した「古典」の中で、一番好きな作品を発表する。 4. 「古典の魅力」について考える ①各自でワークシートに取り組む。(付箋) | ・ピックアップした生徒への指名発表とする。 ・今まで学習した「古典」の想起につなげる。 ・つまずきが考えられる生徒への補助発問 「古典の魅力は？」 「古典はなぜ今まで語り継がれ、読み継が | ■伝わるように読んでいる。 ■根拠をもとに自分の考えを書いている。 |

| | | | |
|---------------------|---|---|--|
| <p>開</p> <p>30</p> | <p>②個人付箋をもとにグループで意見交流し、発表資料を作成する。</p> <p>③グループ発表をもとに全体で意見交換する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 遠い過去のことを知ることができる。 昔の人の気持ちを知ることができる。 時を超えて古人と語り合える。 昔の世界を体験できる。 昔も今も変わらないものがあることを教えてくれる。</p> </div> | <p>れてきたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人での小グループにする。 ・ マッピング方式のまとめとする。 ・ 自分のグループとの違いを意識して聞かせる。 ・ 心に残った意見をワークシートにメモさせる。 <p>・ 教科書の本文最後の段落を引用することも視野に入れておく。</p> | <p><指導目標②評価></p> <p>【グループ活動】</p> <p>【全体での学びあい】</p> <p>■メモすることが課題の解決につながることを理解する。</p> <p>■自力で、課題解決に向かおうとしている。</p> |
| <p>終末</p> <p>10</p> | <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <p>5. 次時の学習を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入させる。 ・ 題名「古典を心の中に」に続く言葉を考えて、これからの意欲につなげる。 | <p>■まとめとしての授の感想を書いている。</p> <p><指導目標③評価></p> |